

マスターズ広島 News Letter

第9号（2013年3月1日）

発行：「広島大学マスターズ広島」事務局

【目次】

1. 代表幹事就任のご挨拶
2. 平成25年春の例会の開催について
3. 平成24年秋の例会の報告
4. 平成24年度退職者の本会への勧誘について
5. 平成25年度の平和科目の担当者について

1. 代表幹事就任のご挨拶

代表幹事 植木研介

本来ならば、ニュース・レター第8号（2012年10月1日発行）の冒頭で、ご挨拶すべきでしたのに、あれこれと追われているうちに、新しい年に入ってしまった。全国的にも珍しい、広島大学という場所で働いていた教員や事務のかたがたが交流と親睦を目的としたボランティアの会ですから、堅苦しい挨拶はいらぬかと思っただけですが、わたくしが代表幹事になった経緯はやはり皆さんにも知っていただきたく、ここに書き記しておきます。

退職する前は、文学部でイギリス文学、特に英国19世紀の小説家、チャールズ・ディケンズのジャーナリストの側面と小説家の側面の関係に興味を持ち、教育と研究に当たっていました。平成20年に定年退職し、非常勤講師などしながら、映画とインターネット基を楽しむ生活のリズムが定着していた、平成22年の早春の頃でしたか、渡辺一雄（前代表幹事）先生から電話が入り、5年ほど前から東広島で「広島大学マスターズ」という会が立ち上げられ、金田晋先生から、広島でも作ったらとの話があり、浅原学長も好意的だとのこと。新しい組織を作ることにすぐ興味を持つわたくしは、この話に乗り、発起人会から関与して平成22年の夏、「広島大学マスターズ広島」の第1回設立総会から、幹事を務めることとなったしだいです。

発足からまもなく、平成23年度4月から広島大学では「平和科目」を選択必修として新しい授業を提供することになり、東広島のほうでも、広島のマスターズでもオムニバス形式ながら、前・後期一コマずつ持つてほしいとの依頼が大学からありました。ついでながら付け加えますと、この講師の一員に、広島大学天文台長をしていた、同級生の大杉節君を説得しようと電話をしましたら、「今は核兵器より、自分は、原子力発電所の問題に興味があるんだよ。どう考えても事故の確率はゼロにはならない」と言いながら引き受けてくれました。福島原発事故の起こる半年前の会話です。

初めは、われわれ広島のマスターズは東千田町の夜間主で前・後期一コマ開講ということで始まったのです。平成23年度に初めて開講してみた時、大学に入りたての1年生が受講できるよう、西条では月曜日の8時45分からの一コマ目に授業を設定していましたので、高等学校まで1時限から授業はあるものだと思います。その結果、翌年、平成24年度の4月からわれわれも前期は西条で授業をする必要に迫られたのです。シラバスも整い、あとは4月の開講を待てばよいという時期の、平成24年の1月末に、渡辺一雄先生が軽い脳梗塞におそわれ、タクシーで、広島県病院に即入院、絶対安静という事態が発生しました。幸いにも渡辺先生の場合、言葉にも、体にも、何の麻痺も残らずすんだのですが、このことに直面したとき、誰かを、授業担当者に指名しなければならないこととなり、講義の事情を知っているわたしが引き受けたのです。

その後、新学期を迎え、新学期の忙しさが静まった頃、渡辺一雄先生が、「今は元気だが、一度、病を抱えた体で、代表幹事を続けるのは心もとない」と幹事会で発言されました。幹事会はいつも土曜日の午後開かれており、土曜は暇だったわたしはそれまで皆勤賞ものと思われるくらい会に出席しておりました。そのことが渡辺先生の頭のどこかにあったのでしょうか、そこでわたしの名前が出てしまったのです。ここまで書いて、振り返って

読みなおしてみると、わたくしのご挨拶は、未来への意欲あふれた新鮮なものでなく、なにか、後ろ向きの運命論者の文章のようですが、平成24年8月25日の第3回総会まではこうであったのは事実で仕方ないでしょう。

この日以降も、総務・広報担当の松水征夫先生のことやら、広島大学が東北の地震・津波・原発事故に端を発する「フェニックス・リーダー養成プログラム」を大学院に設置することを文部科学省が認めた余波のことなど、ドラマティックな、でも結局はハッピーエンドとなる話があるのですが、長くなるのでこらで筆を置くことにいたします。

2. 平成25年春の例会の開催について

春の例会を大杉先生のお世話により、次のとおり広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台を見学させていただくことになりました。最大40名までは参加可能ですので、家族同伴（お孫さんでも結構です）も歓迎です。東広島の広大マスターズの会員にも、関心をお持ちの方に参加を呼び掛けることにしました。

日時：平成25年4月27日（土）18時30分から20時まで（雨天決行）

集合：JR西条駅前に18時に集合

場所：広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台

東広島市西条町下三永695番地1

（TEL）082-420-6230

（URL）<http://www.hiroshima-u.ac.jp/hasc/>

プログラム：

18:30-19:30

4次元シアター「宇宙の旅」の鑑賞（セミナー室）

19:30-20:00

国内最大級の天体望遠鏡「かなた」による土星・
その他惑星の観察



ご出席いただける方は、4月12日（金）までに別紙の詳細な開催案内をご参照いただき、「出欠票」を本会事務局まで同封の封筒で郵送していただくか、ファックスあるいはE-mailにてお送りください。

3. 平成24年秋の例会の報告

企画担当幹事、渡邊一雄

日時：2012年11月13日（火）10時、広島市安佐動物公園玄関前集合

参加者：植木研介、大杉 節、岡崎 和、岡崎真弓、久保田清、渡邊一雄（以上6名）

「秋の例会」は上記の要領で、広島市安佐北区の広島市安佐動物公園で開催されました。これまで春秋2回の例会を行ってきましたが、2012年度は諸般の事情（幹事の病気・入院など）で「春の例会」が流れました。8月25日の第3回総会において代表幹事に植木研介が就任（渡邊一雄が退任）、幹事増員、役職の変更などを決めました。引き継ぎを終えて新しい体制で一步を踏み出しましたが、「秋の例会」もまた準備が遅れ、楽しみにしてこられた方々には申し訳なくお詫び申し上げる次第です。

10月の幹事会で急遽、「秋の例会」の実施を上記のように決定し、会員の皆様にお知らせしましたが、開催まで時間がなく、また平日の設定（園は秋の土日はスケジュールが一杯）のため、いつもよりやや少ない参加者となりました。悪条件にもかかわらず、ご参加下さった皆様に感謝致します。

当日は、午前10時に全員集合し、案内役の野田亜矢子企画広報係（獣医師）の出迎えを受け、動物科学館の講堂で南 心司副園長から歓迎の挨拶と講演を頂きました（増川一幸園長は出張で不在）。

南副園長には、あらかじめ“受講者がクセの多い大人”であることをお伝えしていたので、これを汲んだ興味深いもので、心から感謝する次第です。パワーポイントの要点は、①40年に渡る安佐動物公園の沿革、②入園者数の推移（年約50万人、10月に開園以来2000万人突破）とその分析、③他の動物園との比較（全国89のうちトップ10に入るが、その理由と分析）、④受賞歴（日本最高栄誉の古賀賞3回でこれは多摩動物公園に次いで全国2位、大きな国際賞1回）、⑤予算の最近10年間の変動と分析（現在、約8億円）、⑥餌代の変遷（年約5千万

円)、⑦組織構成(約50名)、⑧希少動物の繁殖実績、保護動物の受け入れ件数(年約200件前後)、教育活動、などでした。動物園と社会、教育との関わりにつき大いに考えることができました。当初30分程度の予定のところ、質疑などもあって南副園長も熱が入り1時間をオーバーし、案内計画者の野田さんがあわてる一幕もありました。

園内食堂で昼食後、渡辺舞菜弥獣医師から、まかない施設と検疫・診療施設の説明を受け、多岐にわたる動物種ごとの餌の分別、疾病状況や老幼、成熟度への配慮など興味深い話を聞き、次に動物病院で森田不二子獣医師から疾病の診療・検査などの話を聞きました。さらに動物の死に伴う病理解剖、骨格標本作製、教材化など、興味深く伺いました。

午後2時過ぎ、寒くなってもいけないのでお世話になった皆さんにお礼を述べてまずは現地解散としました。そのあとも三々五々散策を続けられる方々もおられたようです。

動物園のようななじみ深い公共博物施設につき楽しみながら勉強ができ、参加者一同、満足することができました。南副園長、野田企画広報係をはじめお世話下さった動物園の皆さんに感謝申し上げる次第です。



4. 平成24年度退職者の本会への勧誘について

平成24年度に広島大学を退職された教職員で、広島市及び近郊(東広島市を除く)に在住の方に、入会案内を送付して本会への勧誘を進める時期になりましたが、新規退職者の名簿・住所については、昨年から校友会事務局を通じて、広島大学人事課に情報提供のお願いをして、今年も4月になったら早速に準備を始めることにしたいと思います。

なお、新規退職者への勧誘に際しては、広島大学マスタース広島のこれまでの活動状況や今後の活動予定をしっかりと紹介して、本会の活動に関心を持ってもらえるような資料を追加することにしました。

なお、会員の勧誘を行う際に、退職後でなくても退職前に教職員の所属部局の事務部を通じて勧誘できるような方法を今後探ることの必要性が幹事会で指摘され、今後検討することにしました。

すでに過去に広島大学を退職された教職員で、まだ本会に入会されておられない教職員で、本会の活動に関心をお持ちの教職員をご存知でしたら、会員の皆様からも勧誘をお願いできれば幸いです。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

5. 平成25年度の平和科目の担当者について

平成23年度から開始されました広島大学の平和科目は、平成23年度は前代表幹事の渡邊一雄先生のお世話により、前期・後期とも東千田キャンパスで開講されましたが、平成24年度は代表幹事の植木研介先生のお世話で、前期は東広島キャンパス、後期は広島市内の東千田キャンパスで開講されました。平成25年度も、植木先生のお世話により、昨年と同様に下記の通り、前期は東広島キャンパス、後期は広島市内の東千田キャンパスで開講されます。担当の先生方にはご心配をおかけしますがなにとぞよろしくお願い申し上げます。

■（前期）「平和と人間Cー広島で学ぶ（原爆とは何だったか）ー」：東広島キャンパス

第1回（4／15）問題提起と組み立て、単位の認定について（元文学部 植木研介）

（1）戦争とは何か

第2回（4／22）ナポレオン戦争とヨーロッパ（元文学部 岡本 明）

第3回（4／30）民族紛争（元総合科学部 井上研二）

（2）原爆とは何だったかーある被爆体験

第4回（5／8）被爆をどう考えるか（元教育学部 北川建次）

第5回（5／13）被爆体験の重み（元文学部 寺地 遵）

第6回（5／20）原爆の威力（元理学部 大杉 節）

第7回（5／27）原発を考える（同上）

第8回（6／3）黒い雨を考える（元文学部 植木研介）

第9回（6／10）ある被爆体験（同上）

第10回（6／17）小説を通してみる原爆Ⅰ（元教育学部 岩崎文人）

第11回（6／24）小説を通してみる原爆Ⅱ（同上）

第12回（7／1）復興と被爆建物の保存（元工学部 石丸紀興）

第13回（7／8）放射性物質は何を残すか（元医学部 武市宣雄）

第14回（7／18）被爆資料と総括（元原爆放射線医学研究所 宇吹 暁）

第15回（7／22）むすびー現在から未来へ（元文学部 植木研介）

■（後期）「平和と人間Dー広島から未来に向けてー」：東千田キャンパス

第1回（10／2）問題提起と組み立て、単位の認定（元文学部 植木研介）

（1）戦争は何をもたらすか

第2回（10／9）ナポレオン戦争とヨーロッパ（元文学部 岡本 明）

第3回（10／16）民族紛争Ⅰ（元総合科学部 井上研二）

第4回（10／23）民族紛争Ⅱ（同上）

（2）被爆体験をどう伝えるか

第5回（10／30）被爆をどう考えるかⅠ（元教育学部 北川建次）

第6回（11／13）被爆体験の重み（元文学部 寺地 遵）

第7回（11／20）ある被爆体験（元文学部 植木研介）

第8回（11／27）小説を通してみる被爆（元教育学部 岩崎文人）

第9回（12／4）復興と被爆建物の保存（元工学部 石丸紀興）

第10回（12／11）被爆資料と総括（元原爆放射線医学研究所 宇吹 暁）

（3）原子核科学のこれからを考える

第11回（12／18）原爆の威力（元理学部 大杉節）

第12回（1／8）原発を考える（元理学部 大杉節）

第13回（1／15）被爆と人体（元医学部 武市宣雄）

第14回（1／22）これからの放射線医学（同上）

第15回（1／29）むすびー現在から未来へ（元文学部 植木研介）

広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp